

「平成 28 年度 第 2 回 DRM セミナー」

昨年末、12月9日（金）に「国土交通省自動運転戦略本部（第1回）」を開催する旨、プレスリリースがありました。自動運転分野で我が国が世界をリードしていけるよう検討を進めて行くとの発表でした。他方、自動運転技術の実現には高精度地図や車両周囲の環境認識技術が不可欠と言われ、注目される技術要素となっています。そこで第2回の DRM セミナーでは、自動運転にかかわる国土交通省の取組や注目される技術要素を紹介いたします。

■日時 平成29年2月15日(水) 14:10～17:00（受付開始13:40）

■場所 日本デジタル道路地図協会 6階 大会議室

■講演

(1) 「国土交通省における自動運転の取組み」

国土交通省道路局 ITS 推進室室長 西尾 崇 氏

(2) 「自動運転における高精細地図の利用」

日産自動車(株)総合研究所主任研究員 白土 良太 氏

(3) 「認識技術とディープラーニング」

(株)日立製作所研究開発グループ研究員 石川 昌義 氏

■定員 80名 *定員に成り次第、締め切らせていただきます。

■参加費 無料（事前申込み必要）

■会場案内 東京都千代田区平河町 1-3-13 ヒューリック平河町ビル 6F
DRM 会議室（地図は下記 URL をご参照ください。）
<http://www.drm.jp/company/address.html>

■主な内容

(1) 「国土交通省における自動運転の取組み」

自動運転に関しては、交通事故の削減、地域交通の活性化等の課題解決に大きな効果が期待されている。政府では SIP 自動走行システム推進委員会の下、官民連携による研究開発が進められている。国土交通省でも昨年 12 月に自動運転戦略本部を立ち上げ、省をあげて自動運転技術の普及促進、社会実験・実装等を推進している。本セミナーでは、その具体的施策である「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスの実証実験等について紹介する。

(2) 「自動運転における高精細地図の利用」

自動運転の開発において、近年、地図の重要性が高まってきている。車線・車間維持レベルの自動運転から、追越し・車線変更、分岐・合流、交差点通過・右左折と、より高度な自動運転を実現するためには、センサの出力と地図情報の利用により、車両周囲の環境を高度に認識する必要がある。本講演では自動運転の高度化に伴う地図利用について、いくつかの事例を紹介する。

(3) 「認識技術とディープラーニング」

2012 年にディープラーニングが音声認識、画像認識のコンペティションで優勝してから今年で 5 年経過する。この 5 年の間にディープラーニングは、様々な分野で認識性能を大きく引き上げるだけでなく、従来技術では不可能とされてきた新しい能力も獲得した。本講演では、近年ディープラーニングが獲得した能力とそこで使われる技術について紹介する。

■参加申込み方法

- 参加をご希望の方は、**2月13日(月)まで**に、①参加者氏名、②会社名、所属、役職、③電話番号、④電子メールアドレスを記載し、下記メールアドレスへ参加申込みメールをお送りください。
(参加者が複数の場合は、参加者全員の氏名等上記①～④の記載をお願いいたします)

担当 : yokoyama@drm.or.jp (研究開発部) 横山 宛

○お問い合わせ

(一財) 日本デジタル道路地図協会 (担当 横山)
Tel03-3222-7990
e-mail yokoyama@drm.or.jp
URL <http://www.drm.jp>